

## 式 辞

艶やかな紅梅に心弾む今日の良き日、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様をお迎えして、兵庫県立高砂南高等学校第35回卒業証書授与式を盛大かつ厳粛に挙行できますことは、本校にとりまして、この上ない慶びとするところであり、ご臨席を賜りました皆様に、職員を代表して、心からお礼申し上げます。

本日、ここにめでたく卒業を迎えられました316名の生徒の皆さん、心からお祝い申し上げます。

また、今日の良き日を迎えるにあたり、お子様方を陰に日向にと支えていただきました保護者の皆様の感慨も、ひとしおのものと拝察申し上げます。

私が、卒業生の皆さんと初めて出会ったのは、昨年四月の始業式の日でした。元気なあいさつとしっかりとした態度で式に臨む姿を見て、感心したのを思い出します。文化祭での皆さんのステージ発表は、皆を惹きつける魅力がありました。体育大会のエール交換でのリーダーシップは見事でした。高砂南高校は、「自分で考えて行動する人」「自主性を尊重する学校」を目標に、新しい高砂南高校づくりに取り組んでいます。皆さんは、見事にその先頭を走り、2年生や1年生を引っ張ってくれました。本当にありがとうございます。皆さんの思いをしっかりと引き継いでいきたいと思えます。

ところで、社会は大きな変化の兆しがあります。国外に目を向けると、イギリスのEU離脱、南北朝鮮の状況、アメリカのトランプ大統領の動向。さらに、グローバル化や情報化の進展、人工知能の進化など、私たちを取り巻く生活や社会が急速に変化しています。

ここで、未来を生きていく皆さんに、二つのお願いがあります。一つ目は、「人とのつながりを大切にする」ということ。二つ目は、「人のためにつくす気持ちを持ち続ける」ことです。

一つ目の「人とのつながりを大切にする」について考えてください。

今、電車に乗るとほとんどの人がスマホを触っています。歩いている人でさえ、多くの人がそうです。皆さんは、友だちという時、話をたくさんしていますか。SNSで、一方的に自分の考えを伝えてはいませんか。

「一期一会」

皆さんも何度も聞いたことがある言葉ではないかと思えます。元々は茶道のお茶会において、同じお茶会は今後一生することはできない。だからこの1回を大切にしようという教えから語源が来ているそうです。人との出会いの大切さや、今のこの一瞬一瞬を常に大切にしながら生きることの重要性を教えてください。

卒業による人との別れは寂しいものかもしれませんが、でも、その後には新しい出会いが待っています。その出会いから学ぶことができます。あなたを変えるきっかけになるかもしれません。

私は「スマホを見る。」「SNSで会話する。」ことが出会いとは思えません。しっかりと相手と向き合い、顔を、目を、口を、表情を見てコミュニケーションをとってください。あなたを理解してもらうことが、次の出会いにも繋がっていくように思います。

相手のことを大切に思いながら、「常に今を大切に」「行動するなら常に今だ」という気持ちで生活して欲しいと思っています。

二つ目の「人のためにつくす気持ちを持ち続ける」ことについて、お話をしたいと思います。

皆さんの周りを見てください。「自分中心の考え方」になっていませんか。特に残念な出来事は、トランプ大統領の「難民や中東・アフリカの7か国の国民のアメリカへの入国を、一時禁止する」大統領令です。たくさんの国々から非難の声が上がりました。

2014年に史上最年少17歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは、「罪なきシリア難民の子どもが差別の標的になった。世界が不安定な中で、最も無防備な子どもや家族に背を向けないでほしい。」と訴えました。彼女は、タリバンによる女子学校の破壊を批判し、タリバンから反感を買い、襲撃されました。しかし、奇跡的に回復し、「銃弾では自分の行動は止められない」と訴えるなど、自分の命をかけて女性が教育を受ける権利を訴え続けています。常に問題意識を持って活動し続ける彼女を尊敬します。

ところで、「ベトナムが驚いた日本の子どもの行動」という話を聞いたことがあるでしょうか。こんなお話です。

東北大震災があった日からしばらくして、ベトナム人記者が取材で被災地に入りました。避難所でたまたま通りかかった少年にインタビューしたところ、何でもその少年は津波で両親を亡くし、激しい寒さと飢えで震えていたそうです。食べるものなく、一つのおにぎりを家族で分けて食べるような悲惨な状況の中で、ベトナム人記者は見かねて少年に自分のジャンパーを着せかけました。その時、ポケットから1本のバナナがぽろっとこぼれ落ちたそうです。記者が、「バナナ、欲しいか？」と聞くと、うなずくので手渡したそうです。ところが・・・少年はそれを食べるのではなく、避難所の片隅に設けられたみんなで共有の食料置き場に持って行き、もとの場所に戻ってきたというのです。

私は、この話を読むといつも大きな感動をおぼえます。自分にはそんなことができるのだろうか。きっとわれ先にとバナナを食べるんじゃないかと自問自答します。

卒業生の皆さんには、「苦しい時にこそみんなのためにとの思い」を大切に、「人を思いやり、人のために尽くすことの尊さ」を常に持って生きて欲しいと思います。人生で一番大切なことは、特別なことではなく、ありきたりの毎日の中で、人を思いやり、人に尽くすことではないでしょうか。そして、「人のために尽くす」、その一番の出発点は、あなたの周りにいる人への感謝の気持ちではないでしょうか。家族、地域の方々、学校、これまでたくさんの人に支えられ、助けられて生きてきたことを忘れてはいけません。そして、皆さんの無限の可能性を、将来、是非周りの人の幸せのために役立ててください。

最後になりましたが、保護者の皆様へ一言ご挨拶申し上げます。私たち教職員は、お子様が、自らの生きる道を、自らが切り開いていけるように、全力でサポートして参りました。しかし、至らなかつたところもあろうかと思えます。どうかご容赦願います。今後とも、お子様の輝ける前途を温かく見守り、支え続けていただきますようお願いいたします。

卒業生の皆さん、いよいよ船出です。時には高南を思いだし、学校に元気な顔を見せて来てください。楽しみに待っています。

皆さんの洋々たる前途が健やかで幸多きことを心から祈念して、式辞といたします。

平成29年2月28日

兵庫県立高砂南高等学校長 三谷 暁男